

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立睦合中 学校

厚木市教育委員会の基本目標 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 重久 昭彦

学校教育目標		学校経営の方針		
「未来を拓き ともに支え歩む生徒の育成」 ～学ぶ力、拓く力、つなぐ力～の育成		(1)防災・生活・交通安全教育の充実を図り、安心・安全な教育環境を構築する (2)教育活動全般を通して豊かな人間関係を育む心の教育を充実させる (3)生徒の活動の場を充実させ、自主性を伸ばし将来豊かな自己実現につなげる (4)基礎学力の定着と確かな学力の向上を目指し、授業改善・工夫を図る (5)教職員相互の連携と共通理解のもと、チーム力を生かした指導体制を確立する (6)家庭・地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する (7)ESD教育の実践を通して持続可能な社会性を育む		
		今年度の重点目標		
(1)わかる・できる授業の展開による基礎学力の定着と学力向上(学力向上推進部) (2)生徒の力で創り上げる学校生活の実現(自治力育成部) (3)将来を見据え、よりよい社会を築いていく力の育成(生き方教育部) (4)より良い自分づくり、生活しやすい学校づくりのための生活指導、生徒支援の充実(生徒指導支援部) (5)日常の教育活動や地域行事等での家庭、地域連携の構築 (6)ESD(持続可能な開発のための教育)の展開				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
教科指導の充実	1	相互授業参観 小中連携事業	相互授業参観を通してよりよい授業づくりの意見交換等ができ、参考となることもあったが、その機会を多く設定することが難しいことが課題である。 小中連携は、相互の参観、研究協議を行ない、教科指導の状況を理解することができた。しかし、限られた日数、時間であるため系統的な連携システムの構築までには至っていない。	相互授業参観、小中連携において、あらかじめ深めたい観点、内容を示して具体的かつすぐにできる研究会、事業となるように推進できたらよいと考える。夏季休業を中心に教育計画の中に位置づけ、年間を通して研究を充実させていきたい。
学力向上	1	試験前補習 昼休み補習	昨年度まで実施していたアフタースクールを休止し、昼休みの補習を充実させた。学力ステップアップ支援員の協力もあり、特に試験前には参加者も多く一定の成果が感じられた。	さらに試験前の補習、昼休み補習への参加者を増やす働きかけを行っていく。基礎学力が定着していない生徒へは計画的な参加を促していく。
学級経営の充実	2	学級組織の充実	今年度も全校同一の組織として、各係が専門委員会に直結する仕組みとなっているため、生徒会活動が機能している。全般的に充実していたと言える。	各係の充実や生徒への責任感の醸成において学級組織は非常に大切であり、年度初めに一人一人を生かす学級経営の共通理解を進めていく。職員会議においても年間を通して確認していく。
生徒会活動の充実	2	生徒会活動の充実 (専門委員会、生徒総会) 生徒の力による学校づくり 本校独自の「4本柱」の実践	生徒総会がリモートではなく、久しぶりに体育館を会場にして集合で実施することができた。各委員会活動も充実した取組が見られた。 年度初めは、本校伝統の4本柱の意識が少し薄れた様子であったが、途中からはその確認が少しずつ進められ、挨拶・集会・合唱・清掃というそれぞれの活動においてよい取組につながっていた。	いずれも生徒の大切な活動であり、よりよく実践していく資質・能力の育成がねらいとなっている。伝統の4本柱については、新たに今後どうしていくかを生徒主体に考える場面をつくりながら、生徒会活動のさらなる充実を図っていきたい。

人権教育の充実	2・3	GOOD STORY 人権作文	ESD教育に関連付けて教科等横断的に実践計画を立ててきた。計画は立てたものの、どこまで意識した授業や活動ができたかという点、まだ十分ではない。本校独自の取組、周りの友達からされてうれしかったことをテーマとした作文に全校で真剣に取り組む、人権を考える貴重な機会となっている。	GOOD STORY人権作文については、クラスでの発表、学年、そして全校発表まで繋がっていてとてもよい取組なので、今後も充実させていく。何事もそうであるが、形式だけには終わらないよう工夫を加えていきたい。
防災・健康安全教育の充実	3	防災タイムやチリタイムによる学習 避難訓練・集団下校訓練・小中学校合同引き渡し訓練	毎月1回、資料を活用して防災や交通事故に関連した安全教育を実施し、ある程度の教育効果はあったと言える。本年度は、市の事業であるヘルメットインフルエンサーの取組が加わり、さらに充実した。各種訓練は、生徒も真剣に取り組む、安全に対する知識と行動について概ね身についていると感じる。この訓練を通して学校外でも訓練の成果が発揮できるように意識させていきたい。	引き続き、年間を通して日常的に交通安全教育・指導を行っていく。そして必ず来ると言われている大地震に備えた訓練を多面的な設定を考えて行っていく。できれば、小中高大及び地域と連携した訓練ができればよいと考え、学校運営協議会等で具体的な検討を進めていきたい。
キャリア教育の推進	1・2・3	生徒会活動の充実 職業講話 職場体験 学級活動	1年時は職業講話、2年時は職場体験を実施することにより、社会での勤労等を経験をすることができ、貴重な機会と考える。今年度、職場体験先事業所の決定には苦労した。学級活動では、キャリアパスポート等の活用も含めて将来の自分を考えることはできた。	キャリア教育は大きく言えば日常生活すべてが関係しているものであり、将来の自分づくりに向けて非常に大切な分野であることから、今後も、3年間系統立てて教育の推進をしていく。
生徒指導の充実	2・3	基本的生活習慣の確立 いじめ、暴力の防止 自他の尊重	学級経営を中心に基本的生活習慣はおおむね確立していると言える。人権・道徳教育を絡めて自他を尊重する意識も育っており、全般的には落ち着いた学校生活が送れている。	今後も、生徒指導部を中心に年度初めの共通理解事項をしっかりと確認をして全教員が同一歩調で指導していけるようにする。生徒に寄り添う姿勢、保護者との良好な関係の構築に努める。
生徒支援の充実	2・3	不登校生徒への支援 不適応生徒への支援	不登校生徒の減少が難しい状況にあるが、支援体制づくりが徐々に進み、少しずつではあるが、その成果が見られてきた。ステップルームでエネルギーを蓄え、3年生の複数の生徒たちが教室や集団に入れるようになり、卒業式をみんなと参加することができた。	次年度は、校内フリールールのモデル校になることもあり、より充実した支援体制を整えていきたい。教育相談コーディネーターの変更に伴い、確かな引継と、新たな視点を取り入れた工夫をめざしていきたい。今後も、生徒本人及び保護者との教育相談を充実させ、関係機関とも連携を図りながら状況改善に努める。

特別支援教育の充実	2・3	特別支援教育体制の確立	ほぼ全職員が授業等で特別支援学級の生徒と関わりをもち、毎週情報交換を行っているため、共通理解をして生徒の生活支援や学習支援が進められている。生徒の力も伸びてきており、本校の支援教育は充実していると感じる。課題は、協力が得にくい保護者との連携の難しさである。	支援体制は引き続き、全校体制で行い、すべての教員がインクルーシブの考えを学びながら支援を進めていくようにする。保護者の対応は担任が窓口になるが、組織的な対応を原則とし、個人の負担にならないように気を付けていく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
今年度の教育活動も、全体的に年間を通して適切に運営することができ、授業や行事において生徒の取組は充実していたというよい評価をたくさんいただいた。本校の4グループの指導・支援体制についても、バランスがとれ、よく機能していると認められた。また、地域との連携については、市内一斉に行われる防災訓練や年末美化清掃時はもちろん、各地区や公民館の行事に多くの生徒が参加し、非常に感謝され、大きな評価をいただいた。生徒調査からも「人の役に立つ人間になりたいと思う」「地域や社会をよくするために…」の項目で高評価に繋がっており、とても大切な「生きる力」が確かに育まれていると感じたというご意見もあった。不登校生徒への対応について、本校で設置しているステップルームは効果的だが、個に応じた支援がさらに進められるとよいという話題も挙げられていた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
年度当初に計画した教育活動を順調に実施することができた。生徒の活動においては、安全・防災教育や人権教育等に力を入れてきたが、次年度も命や思いやりの心について最優先に考えていく。同時に、心を動かす経験を重ね、感性や共感力、想像力を育てていきたい。確かな学力の定着については長年の課題となってるが、まずは魅力ある授業づくりをさらに進めていく。また、不登校生徒の対応については、未然防止に力を入れ、支援の必要な生徒への手立てを早い段階から施していく。地域学校協働活動が始まる次年度は、学校関係者評価を参考にして、地域と学校のよりよい連携を目指していきたい。				